

1. この科研の問題意識と目的

Q1: スピーチアクトの記述はなぜなかなか進まないか？

A1: それぞれのスピーチアクトの意味と効力は普遍的ではなく文化固有なものだから。

文化固有性を回収できる一般的な枠組みを考える必要がある。

A2: スピーチアクトを記述しようとしても、しばしば反例が出てくるから。

「統語規則と違って談話規則は違反可能。違反時に状況に特殊性があればその談話規則は正しい」(Fillmore)

前の科研「人物像に応じた音声文法」(H19-22) は、文化固有性の回収先として「人物像(キャラクター)」を設ける試み。

例 驚き・発見・興味喚起・感心の感動詞は基本的に上昇調か高平調。

「あら」「あれ」「うわー」「えー」「おや」「げー」「ふーん」「へー」「ほう」

『上品』な人物像だけが下降調。

「あら」「あれ」「おや」「なんと」「まあ」

本科研(H23-26) は、状況に焦点を当てる。文化固有性の回収先として「人物像」だけでなく「状況」も追加し、談話規則(スピーチアクト)を明らかにする。

2. 「状況」とは？

発話により顕在化する立場のセット

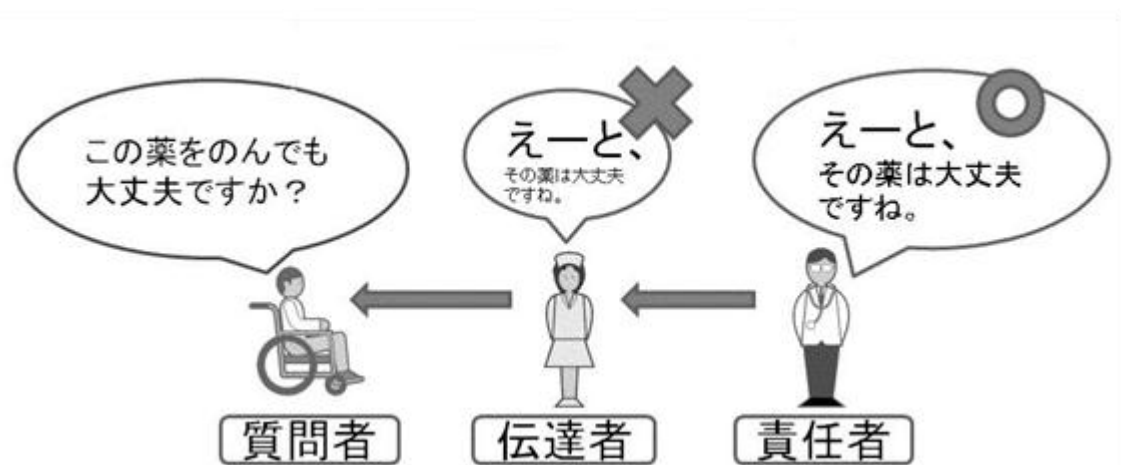


図 1: 薬の問題をめぐる「状況」(患者は『質問者』, 看護師は『伝達者』, 医者は『責任者』)

状況は一般的

「えーと」 空気すすり 「あ、サイドブレーキかかった」

文化差あり

フランス語話者にとっての「えーと、定延です」

3. やりたいこと

3.1. 新しいデータ収集の形を検討する（神戸大学メディア文化研究センターとの連携）

3.1.1. 「私のちょっと面白い話」 コンテスト

(1) ネイティブのしゃべり方を絶対視しない。うまいしゃべり手とそうでないしゃべり手
民話話芸の記録 「うまさ(skill)を持ち込まない文法理論は最終的に破綻する」(Durie)

(2) 収録の負担はインフォーマント側

(3) データの死蔵から共有へ

(4) 字幕、日本語版・英語版・中国語版・フランス語版

3.1.2. 無重力下でのデータの分析

(JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency, 宇宙航空研究開発機構) との連携)

<http://jda.jaxa.jp/> 動画の取り込みに制限 DVD の貸出

3.2. 「話しことばの文法」の構築（著書を予定）

3.2.1. 会話分析との連携例

体験と知識 「(りきんで) からいよー」 Sacks

3.2.2. 音声科学との連携例

語彙アクセントとイントネーションの **cumulation** はあるのか？ 平叙文の下降調イントネーションはあるのか？ いわゆる「一語文発話」としての「雨。」の音調は、「単語発話」としての「雨」より低く下がるか？ いわゆる「一語文発話」としての「飴。」の音調は、「単語発話」としての「飴」より低く下がるか？ いわゆる「一語文」は文か？ あるいは、「単語発話」は単語発話でしかないか？

3.2.3. 音楽学との連携例（省略）

.....

3.3. 新しい成果発表の形を検討する（日本語音声コミュニケーション教育研究会との連携）

紙媒体ではなく、音声・動画を取り込んだ電子的な出版 ひつじ書房

- ・ 林良子「日本語の発音～教室での気づきから論文投稿まで」
- ・ 金田純平「私の日本語授業をネットで公開するには」
- ・ Toshiyuki SADANOBU “The competitive relationship between Japanese accent and intonation” 別紙

3.4. その他

ホームページ 近日公開

「ひらめき☆ときめきサイエンス」(学術振興会)

国際会議? (日本語学会春季大会シンポジウム)

モノづくり